



通 俗

天 文 學 ABC

講 座

山 本 一 清

(3) 星圖とカタログ (續)

上に述べたのは、一般に用ゐられる恒星目録でありまして、言ふまでもなく、其の目的は個々の恒星の経緯度を正確に記載するのでありますが、しかし尚ほ又、特殊な天體のためには特殊なカタログがあります。之れ等のものについて、ごく普通に用ゐられるものを書いて見ませう。

先づ、恒星の固有運動の目録ですが、此の種のものは、今日、一般に知られてゐる恒星基本目録、例へば

1. ニウカムの 基本目録 (Newcomb's Fund. Cat.)
2. アウエルス の 新基本目録 (N. F. K.)
3. L. ボ ス の 暫定總目録 (P. G. C.)

等が、皆、編輯目録である性質上、経緯度と共に、正確な固有運動をも載せて居ります。尚ほ其のほか、専ら固有運動を集録してゐるものとしては、

3. ポ | タ | 作 シンシナチ目録
4. ショア作 固有運動辭典 (Eigenbewegungs-Lexikon)

等が最も豊富で、且つ信頼し得るものであります。

次に、恒星の視線速度については、米國のリク天文臺から出版される Publications や Bulletin が最も豊富な材料であります、目録としては

1. ファウト Voute 作 視線速度目録

があります。

それから、恒星の光度の目録としては、先づ眼視光度を集録したものに下

の如きものがあります。

順番	作 者	名 稱	年 代	摘 要	略符
1	フ リ チ ャ ド	Uranometria Nova Oxoniensis	1885	楔形光度計觀測, 2784星 —10°以北	—
2	ビ ケ リ ン グ	Harvard Photometry	1884—1902	子午線光度計觀測, 4260星	H.P.
3	同 上	Revised Harvard Photometry	1908	同 上 9110星全天	R.H.P.
4	ミ ュ ラ ー 等	Photometrische Durchmusterung	1907	北天の7等級以上 14199星	P.D.
5	オ ギ ャ ー ラ	P. D. der Südlichen Himmels.	1916	南緯0°/10° 2122星	S.P.D.

又、寫眞光度の目録としては、下の如くで、未だ全天には普及してゐません。

1	ビ ケ リ ン グ	Draper Catalogue	1890	北極より南緯25°迄, 7.5^m 以上
2	シ ヅ ル ツ シ ル ド	Göttinger Aktinometrie	1910	赤道より北緯20°迄, 7.5^m 以上
3	パ ー カ ー ス ト	Yerkes Actinometry	1912	北緯73°以北, 7.5^m 以上
4	ダ イ ソ ン	Photographic Magnitude	1913	北緯75°以上, 9.0^m 以上

次に、恒星のスペクトルの目録は、下記の如く、殆んどハーバード大學天文臺の獨り舞臺です。

順番	作 者	名 稱	年 代	摘 要	略符
1	フ レ ミ ン グ 夫 人	Draper Catalogue	1890	南緯25°以北, 10351星	D.C.
2	ミ ス ・ モ リ	Spectra of Bright Stars	1897	南緯30°以北, 640星	—
3	ミ ス ・ カ ノ ン	Spectra of Bright Southern Stars	1901	主に南天星, 1122星	—
4	ミ ス ・ カ ノ ン	Henry Draper Catalogue	1924	全天にわたり約225000星	H.D.

又、恒星の視差の目録といふものは、近年まで全く無かつたのですが、1925年に至つて

1. シ レ シ ン ジ ャ F. Schlesinger 作 Catalogue of Trigonometric Parallaxes (1870星)といふものが出版されました。

次に、特殊な天體の目録を挙げませう。先づ、二重星については、今まで多くの觀測者たちが各自の研究報告を目録のやうに表示して發表するのが普通でありましたので、とても茲に記し切れない程多數ですが、總目録としては、

1. **バナム** Burnham 作 「二重星總目錄」南緯 31° 以北 13665對 1906年出版
2. **エイトケン** R. G. Aitken 作 同 上 17180 1932年出版

又、分光連星は、やはりリク天文臺の獨壇場で、1900年には第一目錄、1900年に第二目錄といふものを出版してゐますが、近年第三目錄が出ました。

1. **ムーア** J. H. Moore 作 1054星

次に、變光星の目錄も、1888年に米國のチャンドラーが第一目錄を出して以來、ハワード天文臺や、獨國 A.G.協會でも屢々出版しましたが、今は

1. R. Prager **プラーゲル**作 變光星目錄及び豫報

といふ極めて 完全なものが毎年一回づつ改版されて出版されることになりましたから、之れ以上のものは今は望めますまい。

又、星團や星霧の目錄としては

順番	作 者	名 稱	年代	摘 要	略符
1	メシエ	Catalogue	1781	103個	M.
2	J. ハーシェル	General Catalogue	1864	5079 ²	G. C.
3	ドライヤ	New General Catalogue	1888	7840 ² (1895, 1908兩年に補缺す)	N.G.C.
4	ルンドマルク	General Catalogue	1930?	?	

さて、前にも記しましたやうに、種々の立派なカタログの有無に拘らず、**星圖**といふものは、アマチュアにも、専門家にも、やはり、慾しいもの、必要なものです。

星圖と言つても、昔しは、學者や好事者は多く天球儀を用ゐたものです。今でも、西洋ではやはり天球儀が用ゐられますし、又、或る意味に於いてもつと輕便な一枚刷の恒星チャート（古賀恒星圖のやうなもの）が愛用されますが、しかし、星圖として、多くの人を惹きつけるのは、何と言つてもページ数の多いアトラスです。我が國には未だ此うした恒星アトラスの好いのが一つも無いのは残念です。次ぎに、外國製の有名なアトラスを幾つか紹介させよう。

多少クラシカルなもので、今は普通の手段で手に入りにくい星圖であつても、歴史的に有名なもの二つ三つを加へて、まづ大體下の如き星圖を知つて置くべきだらうと思ひます、

順番	作 者	名 稱	年 代	摘 要
1	バイエル	Uranometria	1603	始めて $\alpha\beta\gamma$ …等を星に附す
2	フラムスチード	Atlas coelestis	1729	28枚
3	ボーデ	Uranographia	1801	
4	アルゲラング	Uranometria nova	1843	北 天
5	グールド	Uranometria Argentina	1879	南 天
6	デアン	Atlas céleste	1865	元期1860.8等迄の星十萬を含む
8	ハイス	Altas coelestis	1872	精細な星座畫及銀河圖あり
9	プロクタア	A Star Atlas	1870	1871年に小型版出づ星の光度
10	シュリヒ・ゲツ	Himmels-Atlas	1886	表あり
11	クライン	Stern-Atlas	(第5版1923) 1887	光度の區別精し. 獨逸版の最良
12	ヒース	Atlas	1905(?)	北極より南緯34迄
13	ノルトン	A Star Atlas	1910	ノモン式の星圖
14	ストウカ	Stern-Atlas	(第4版1926) 1924	元期1920. 肉眼星7000其他. 18圖
15	バイエル・ グラーツ	Stern-Atlas	1925	三卷全天7等半以上. 分點1900年
16	アルゲラング等		1860	南緯23°以北, 9等星以上
17	アプトン	Star Atlas	1896	B.D. 星の圖
18	リトロ・ ベカ	Sternatlas	1923	元期1940年
19	デルボイト	Atlas céleste	1930	元期1875. 星座境界線は新式

上記のうち、バイエル、フラムスチード、ボーデ等の星圖は何れも百年乃至三百年以前のもので、手に入りさへすれば、古物として珍重されるものですけれど、中々困難であり、又、餘り時代離れてゐるので、實際に之れ等を用ゐるとしては却つて不便が多いでせう。今日アマチュアは言ふに及ばず、専門家なども、持つてゐて、最も役に立つのは、ハイス、プロクタア、シュリヒ・ゲツ、クライン、ヒース、ノルトン等でせう。中にもシュリヒ・ゲツの星圖は獨逸あたりでは最も愛用せられてゐますし、又、ノルトンのものは、發刊以來既に幾度も版を重ねて、改良に改良を加へましたから、英語の星圖としては現今第一等のものです。單に星の數が多いものと言へば佛國のデアン、近年獨逸製のストウカ、グラーツ等が良いでせうが、グラーツや、アルゲラング等のものは全く専門家向きのもので、アマチュアたちには却つて不便でせう。

尚ほ、寫眞を製圖化したもので、専門家用の精しい星圖に下の如きものがあります。

1.	各 天 文 臺	Cart du ciel	未完成
2.	フランクリン・アダムス	寫眞星圖	全天200枚
3.	ヨルフ・パリザ	Photographische Sternkarten	
4.	ハイワイド天文臺	ガラス版のまゝの寫眞星圖	
5.	ユニオン天文臺	寫眞星圖	フランクリン寫眞を印行したもの